

②学年比較（生徒・保護者）

質問の分類：①学習指導、②科目選択・進路指導、③生活指導・人権、④家庭・地域連携、⑤学校生活

No.	対象	生徒										保護者 ※R6学年別スコアは不明									
		質問項目	回答割合					グラフ	スコア			質問項目	回答割合					グラフ	スコア		
			4	3	2	1	0		R7	R6	R5		4	3	2	1	0		R7	R6	R5
①1	1年生	わかりやすく魅力ある授業が多い。	36%	50%	4%	2%	8%		3.3	3.0	2.8	学校はわかりやすく魅力ある授業づくりに取り組んでいる。	17%	55%	3%	3%	21%		3.1		2.7
	2年生		34%	46%	13%	3%	4%		3.1	3.0	2.7		19%	66%	8%	3%	5%		3.0		2.8
	3年生		29%	46%	14%	3%	8%		3.1	2.7	2.8		24%	49%	11%	2%	13%		3.1		3.0
①2	1年生	学習の評価はテストの得点だけでなく、日々の取り組みなども含めて総合的になされている。	49%	41%	6%	2%	2%		3.4	3.4	3.3	学習の評価はテストの得点だけでなく、日々の取り組みなども含めて総合的になされている。	41%	45%	3%	0%	10%		3.4		3.2
	2年生		46%	38%	9%	1%	6%		3.4	3.4	3.3		42%	52%	5%	0%	2%		3.4		3.1
	3年生		42%	38%	10%	3%	7%		3.3	3.1	3.2		51%	35%	7%	0%	6%		3.5		3.2
①3	1年生	家庭での学習習慣は定着している。	20%	34%	20%	18%	7%		2.6	2.2	2.2	子どもの家庭での学習習慣は定着している。	16%	31%	34%	14%	5%		2.5		2.4
	2年生		21%	34%	23%	9%	12%		2.8	2.1	2.0		20%	38%	34%	6%	2%		2.7		2.4
	3年生		26%	26%	23%	11%	14%		2.8	2.0	2.2		20%	30%	34%	13%	2%		2.6		2.7
①4	1年生	授業の中でICT機器（クロームブック）や視聴覚教材（動画や音声）が効果的に活用されている。	49%	35%	10%	4%	2%		3.3	3.4	3.3	授業の中でICT機器（クロームブック）や視聴覚教材（動画や音声）が効果的に活用されている。	17%	53%	10%	3%	16%		3.0		
	2年生		41%	42%	9%	3%	5%		3.3	3.4	3.1		23%	56%	13%	2%	6%		3.1		
	3年生		40%	38%	14%	2%	7%		3.2	3.4	3.1		24%	50%	10%	5%	11%		3.1		
②1	1年生	科目選択について、ガイダンスや面談などを通じたきめ細かい指導がなされている。	38%	47%	9%	1%	5%		3.3	3.0	3.0	科目選択について、ガイダンスや面談などを通じたきめ細かい指導がなされている。	21%	55%	9%	3%	12%		3.1		2.9
	2年生		30%	48%	12%	2%	8%		3.1	3.1	2.8		31%	58%	6%	2%	3%		3.2		2.9
	3年生		32%	39%	17%	1%	11%		3.2	2.9	3.0		27%	51%	16%	0%	6%		3.1		3.1
②2	1年生	選択科目は興味、関心、適性、進路希望に応じて選択できるようになっている。	41%	47%	5%	3%	4%		3.3	3.3	3.3	選択科目は興味、関心、適性、進路希望に応じて選択できるようになっている。	24%	60%	5%	3%	7%		3.1		3.1
	2年生		45%	40%	8%	1%	6%		3.4	3.1	3.1		33%	59%	6%	0%	2%		3.3		3.1
	3年生		40%	37%	14%	1%	9%		3.3	2.9	3.1		34%	49%	12%	0%	5%		3.2		3.2
②3	1年生	進路決定に向けて、情報の提供や個別の相談などを通じたきめ細かい指導がなされている。	35%	50%	10%	1%	4%		3.2	3.1	3.1	進路決定に向けて、情報の提供や個別の相談などを通じたきめ細かい指導がなされている。	24%	48%	10%	5%	12%		3.0		2.8
	2年生		38%	40%	14%	1%	7%		3.2	3.0	2.9		27%	47%	16%	5%	6%		3.0		2.9
	3年生		39%	34%	16%	1%	10%		3.2	3.2	3.4		43%	37%	15%	4%	2%		3.2		3.2
②4	1年生	各種の資格・検定の受験者数や合格率向上のための指導がなされている。	33%	48%	8%	1%	10%		3.3	2.9	3.0	各種の資格・検定の受験者数や合格率向上のための指導がなされている。	12%	53%	12%	7%	16%		2.8		
	2年生		39%	42%	12%	1%	6%		3.3	3.2	3.0		27%	53%	9%	0%	11%		3.2		
	3年生		36%	37%	16%	2%	9%		3.2	3.1	3.1		32%	41%	12%	5%	10%		3.1		

②学年比較（生徒・保護者）

質問の分類：①学習指導、②科目選択・進路指導、③生活指導・人権、④家庭・地域連携、⑤学校生活

No.	対象	生徒										保護者 ※R6学年別スコアは不明									
		質問項目	回答割合					グラフ	スコア			質問項目	回答割合					グラフ	スコア		
			4	3	2	1	0		R7	R6	R5		4	3	2	1	0		R7	R6	R5
③1	1年生	社会のルールや日常生活のマナー、基本的な生活習慣を身に付けるための指導がなされている。	45%	48%	4%	1%	2%		3.4	3.2	3.2	社会のルールや日常生活のマナー、基本的な生活習慣を身に付けるための指導がなされている。	34%	45%	10%	2%	9%		3.2		3.1
	2年生		43%	40%	9%	3%	5%		3.3	3.2	3.1		34%	53%	6%	3%	3%		3.2		3.0
	3年生		42%	35%	11%	3%	9%		3.3	2.8	3.1		35%	41%	10%	7%	6%		3.1		3.1
③2	1年生	学校生活に関する指導方針や指導方法について納得できる。	42%	44%	6%	2%	6%		3.3	3.0	2.9	学校生活に関する指導方針や指導方法について納得できる。	26%	50%	7%	7%	10%		3.1		2.9
	2年生		38%	41%	11%	4%	6%		3.2	3.0	2.6		30%	59%	6%	3%	2%		3.2		2.8
	3年生		36%	34%	15%	7%	7%		3.1	2.5	2.6		35%	43%	11%	5%	6%		3.2		3.0
③3	1年生	困ったり悩んだりしたときに相談がしやすい雰囲気がある。	36%	41%	10%	2%	11%		3.2	3.0	2.9	教育相談やカウンセリングの体制が充実しており、子どもの相談に適切に対応している。	24%	45%	17%	3%	10%		3.0		3.0
	2年生		38%	38%	10%	7%	7%		3.1	3.0	2.8		25%	55%	13%	3%	5%		3.1		3.0
	3年生		37%	35%	14%	5%	8%		3.1	2.7	2.9		32%	41%	13%	5%	9%		3.1		3.1
③4	1年生	自分たちの意見は大切にされている。	39%	39%	9%	1%	12%		3.3	3.2	3.2	子どもの多様な意見が大切にされている。	24%	41%	10%	12%	12%		2.9		3.0
	2年生		44%	37%	8%	4%	7%		3.3	3.1	3.0		16%	66%	11%	3%	5%		3.0		2.8
	3年生		39%	34%	15%	4%	8%		3.2	2.8	3.1		33%	34%	17%	6%	10%		3.0		3.1
③5	1年生	学校生活全体を通して、人権の大切さについて学ぶ機会があり、自らの人権も尊重されている。	40%	44%	5%	1%	10%		3.4	3.1	3.2	学校生活全体を通して、人権の大切さについて学ぶ機会があり、生徒の人権も尊重されている。	22%	45%	16%	5%	12%		3.0		2.9
	2年生		44%	39%	7%	3%	7%		3.3	3.1	3.1		22%	59%	13%	3%	3%		3.0		2.8
	3年生		40%	38%	13%	3%	7%		3.2	2.8	3.0		30%	40%	12%	7%	10%		3.0		3.1
④1	1年生	保護者や地域の人は学校に関心を持っていると感じることが多い。	31%	44%	9%	1%	15%		3.2	2.7	2.7	保護者や地域の人は学校に関心を持っていると感じることが多い。	9%	47%	19%	5%	21%		2.7		2.7
	2年生		31%	44%	9%	5%	11%		3.1	2.8	2.8		20%	47%	27%	6%	0%		2.8		2.6
	3年生		27%	37%	20%	2%	14%		3.0	2.5	2.7		18%	39%	23%	11%	9%		2.7		2.7
④2	1年生	子どもの出欠や学習状況など、学校生活について十分に知らされている。										子どもの出欠や学習状況など、学校生活について十分に知らされている。	29%	45%	12%	5%	9%		3.1		3.1
	2年生												38%	50%	8%	2%	3%		3.3		3.0
	3年生												37%	38%	20%	2%	4%		3.1		3.1
④3	1年生	学校は家庭からの連絡や相談に適切に対応している。										学校は家庭からの連絡や相談に適切に対応している。	38%	40%	10%	2%	10%		3.3		3.3
	2年生												41%	45%	8%	3%	3%		3.3		3.2
	3年生												40%	43%	10%	4%	4%		3.2		3.3
④4	1年生	保護者面談は回数、質ともに満足できる。										保護者面談は回数、質ともに満足できる。	38%	50%	9%	0%	3%		3.3		3.3
	2年生												39%	52%	6%	2%	2%		3.3		3.1
	3年生												44%	40%	11%	2%	2%		3.3		3.3
④5	1年生	保護者や地域の人が積極的に参加できるよう、学校行事は工夫されている。										保護者や地域の人が積極的に参加できるよう、学校行事は工夫されている。	22%	57%	16%	2%	3%		3.0		3.0
	2年生												31%	52%	9%	5%	3%		3.1		3.0
	3年生												29%	46%	15%	4%	6%		3.1		3.1
④6	1年生	PTA活動は適切な内容になっている。										PTA活動は適切な内容になっている。	22%	47%	7%	10%	14%		2.9		2.9
	2年生												31%	45%	11%	5%	8%		3.1		2.8
	3年生												23%	44%	12%	6%	15%		3.0		2.9

②学年比較（生徒・保護者）

質問の分類：①学習指導、②科目選択・進路指導、③生活指導・人権、④家庭・地域連携、⑤学校生活

No.	対象	生徒										保護者 ※R6学年別スコアは不明									
		質問項目	回答割合					グラフ	スコア			質問項目	回答割合					グラフ	スコア		
			4	3	2	1	0		R7	R6	R5		4	3	2	1	0		R7	R6	R5
⑤1	1年生	学校の施設・設備は授業や学校生活がしやすいよう整備されている。	33%	47%	11%	4%	5%		3.1	2.9	2.8	学校の施設・設備は授業や学校生活がしやすいよう整備されている。	19%	47%	19%	7%	9%		2.8	3.0	
	2年生		34%	44%	10%	8%	4%		3.1	2.9	2.6		28%	55%	14%	2%	2%		3.1	2.9	
	3年生		26%	41%	20%	5%	8%		3.0	2.6	2.6		26%	40%	24%	4%	6%		2.9	3.1	
⑤2	1年生	部活動は生徒の希望や状況に合ったものになっている。	42%	40%	5%	3%	10%		3.3	3.1	3.0	部活動は生徒の希望や状況に合ったものになっている。	22%	47%	10%	12%	9%		2.9	2.7	
	2年生		36%	36%	10%	6%	12%		3.2	2.9	2.9		19%	58%	11%	6%	6%		3.0	2.9	
	3年生		33%	32%	15%	4%	15%		3.1	2.7	2.9		28%	44%	15%	6%	7%		3.0	2.9	
⑤3	1年生	ボランティア活動に参加する機会が充実している。	43%	41%	6%	3%	7%		3.3	3.0	3.1	ボランティア活動に参加する機会が充実している。	5%	52%	21%	5%	17%		2.7	3.0	
	2年生		45%	36%	10%	3%	6%		3.3	3.0	3.2		17%	59%	14%	3%	6%		3.0	3.1	
	3年生		33%	41%	15%	2%	9%		3.2	2.9	3.0		28%	38%	20%	6%	9%		3.0	3.1	
⑤4	1年生	学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう工夫されている。	42%	48%	6%	1%	3%		3.3	3.1	3.2	学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう工夫されている。	16%	57%	14%	5%	9%		2.9	3.1	
	2年生		38%	44%	10%	4%	4%		3.2	3.2	3.0		28%	53%	11%	3%	5%		3.1	3.1	
	3年生		38%	40%	14%	2%	7%		3.2	2.7	3.0		32%	49%	13%	1%	5%		3.2	3.2	
⑤5	1年生	特色のある学校を目指していると感じる。	39%	40%	6%	2%	13%		3.3	3.0	3.0	特色のある学校を目指していると感じる。	24%	43%	14%	9%	10%		2.9	2.9	
	2年生		38%	39%	9%	5%	9%		3.2	3.0	2.6		22%	53%	16%	8%	2%		2.9	3.0	
	3年生		35%	37%	15%	3%	10%		3.2	2.6	2.9		27%	39%	15%	10%	10%		2.9	3.1	
⑤6	1年生	総合学科の生徒として自ら考え行動できるようになった。	38%	43%	7%	2%	10%		3.3	3.2	2.9	子どもは総合学科の生徒として自ら考え行動できるようになっている。	28%	45%	16%	3%	9%		3.1	3.0	
	2年生		43%	38%	11%	2%	6%		3.3	3.1	2.9		28%	53%	11%	3%	5%		3.1	3.1	
	3年生		36%	37%	14%	3%	10%		3.2	2.9	3.1		35%	38%	15%	7%	5%		3.1	3.2	
⑤7	1年生	緑陽生として誇りを持っている。	34%	46%	9%	3%	8%		3.2	2.9	2.9	子どもは緑陽生として誇りを持っている。	19%	43%	21%	7%	10%		2.8	2.8	
	2年生		32%	38%	11%	12%	7%		3.0	2.9	2.6		20%	55%	17%	8%	0%		2.9	2.8	
	3年生		32%	39%	18%	3%	8%		3.1	2.5	2.8		26%	44%	16%	11%	4%		2.9	3.1	
⑤8	1年生	学校生活に満足している。	32%	45%	15%	3%	5%		3.1			子どもは学校生活に満足している。	22%	53%	16%	5%	3%		3.0		
	2年生		38%	38%	9%	7%	8%		3.2				30%	52%	17%	0%	2%		3.1		
	3年生		36%	41%	13%	3%	8%		3.2				39%	44%	9%	5%	4%		3.2		

令和7年度 学校評価書 別紙

令和7年度の具体的な学校経営目標

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価
教務課	(1)	① 生徒の学習意欲を喚起するため、ICTを積極的に活用した「分かる・できる」授業づくりを推進する。	A a, bともに達成	a (達成) ア 授業に関するアンケート（前期・後期）の集計・分析結果資料を作成し、職員間で共有した。	A
		② ア 授業力アップ推進チームを中心に教員研修や授業公開を企画、運営し、生徒アンケートの結果を教員間で適切に共有する。 イ Chromebookや生成AIの活用に関する研修を企画、実施し、教員の一人一台端末活用スキルを向上させる。	B a, bいずれかを達成	イ 授業力アッププロジェクト教員研修を2回（5月・8月）実施した。必要に応じて生成AIを活用しながら生徒の興味関心を喚起する授業づくりを推進した。	
		③ a ア、イの実施 b 学校評価アンケート（生徒）で「内容が分かりやすく魅力ある授業が多い。」の総計平均が3.0以上。	C Bに満たない	b (達成) 学校評価アンケート（生徒）で「内容が分かりやすく魅力ある授業が多い。（文言を「わかりやすく魅力ある授業が多い」に修正）の総計平均は3.2であった。	
	(2)	① 生徒の自己肯定感を高め、学びに向かう力、人間性等を涵養するために、形成的評価を重視した「指導と評価の一体化」、および緑陽型学習指導のスタンダード（改訂版）を基盤にした学習指導を推進する。	A a, bともに達成	a (達成) ア 4月に「成績処理ガイダンス」を開催し、学習評価の考え方について理解を深め、成績処理用標準ファイルの運用方法を周知した。	B
		② ア 年度はじめに端末活用、成績処理に関するガイダンスを実施して教員の学習評価に関する目線を合わせ、事務処理を簡便化するための成績処理用標準ファイル（Excel）を提供する。 イ 学習指導における形成的評価を推奨し、観点別評価における教科・科目間でのばらつきを平準化する。	B a, bいずれかを達成	イ 1学期末観点別評価における各観点の割合（学年ごとの平均）を教員間で共有し、「割合ありきではない」という点を強調しつつ、Cと評価する生徒が少なくなるような学習指導の手立てを工夫していくことを確認した。	
		③ a ア、イの実施 b 2学期末の観点別評価で全評価における「C」の割合が7%未満。	C Bに満たない	b (未達成) 2学期末の観点別評価で全評価における「C」の割合は、7.5%であった。	
	(3)	① 個々人が時間管理意識を持ち、基本的な仕事の進め方（報告・連絡・相談）を担当者間（課長等含む）で共有し、定期考査実施、成績処理、科目選択事務、教科書採択事務、入試事務を確実に遂行する。また、「あ・す・か・ぶ・た」を念頭に業務の慣行や仕組みを積極的に見直す。	A a, bともに達成	a (達成) ア 教務課会議を紙上、対面合わせておおむね月1回のペースで開催し、Googleドキュメントを利用して内容の周知、記録、意見交換を行っている。	A
		② ア Chromebookを活用した課内での進捗管理や情報共有を行う。 イ 「あ・す・か・ぶ・た」に基づく業務改善に取り組む。	B a, bいずれかを達成	イ ①長期休業中課題の取りまとめ電子化、②学校評価アンケートの項目整理と集計資料作成簡略化、③オープンスクール申込等の一元管理による効率化、④共用PCスペースの不要物品等整理、⑤欠試理由一覧の印刷・配布廃止、⑥職員会議議事録作成での生成AI活用	
		③ a ア、イの実施 b 学校内、課内での「あ・す・か・ぶ・た」に基づく仕組み改善5件以上。	C Bに満たない	b (達成) 改善6件	
教務課（図書）	(1)	① 生徒が安全にかつ安心して過ごせる環境となるように図書館を整備する。	A a, bともに達成	a (達成)	B
		② ア 生徒それぞれの利用目的にあった快適な環境を提供する。 イ 読書週間中にワークショップなどを企画し、図書館利用者数を増やす。	B a, bいずれかを達成	ア ボードゲームを用意して様々な学年の生徒が交流できる場、静かに読書、勉強できる場として図書館を整備した。	
		③ a アの実施。 b 読書週間中の図書館利用者数が100人以上。	C Bに満たない	b (未達成) 読書週間中の図書館利用者は80人。	
	(2)	① 授業等に活用できる資料など多様なジャンルの本を揃え、生徒の主体的な活動を支援する。	A a, bともに達成	a (達成)	A
		② ア 蔵書のジャンル別の割合を確認し、冊数が少ないジャンルの本を増やす。 イ 様々な教科の教員と連携して授業で活用できる本を増やす。	B a, bいずれかを達成	ア 図書館司書と連携し、冊数が少なかった1哲学、4自然科学蔵書を追加。また、冊数が少なかった漫画を購入。	
		③ a ア、イの実施 b 図書館を活用した授業が年8回以上。	C Bに満たない	b (達成) 図書館を利用した授業を15回実施（国語、総探、家庭科）。3学期に美術でも利用予定。	
	(3)	① 図書館の魅力をもっと多くの生徒に知ってもらえるよう、図書便りの発行やHPの更新などの情報発信に努める。	A a, bともに達成	a (未達成)	B
		② ア 年に4回、図書館の新书推荐やおすすめの本の紹介、図書館のイベント情報を載せた図書便りを発行し、HPもその都度更新する。 イ 生徒が図書館に魅力を感じられるように年2回ワークショップを実施する。	B a, bいずれかを達成	ア 2回図書便りの発行を行ったが、HP更新は行えなかった。	
		③ a ア、イの実施 b ワorkshopの参加者が各ワークショップ10名以上。	C Bに満たない	b (達成) ワークショップを2回実施し、いずれも参加者が10名を超えた。（1回目：11人、2回目：10人）	

令和7年度 学校評価書 別紙

令和7年度の具体的な学校経営目標

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価
教務課 （渉外・広報）	(1)	① 授業力向上に向けた取り組みについてホームページ、パンフレット等で発信し、生徒の学習意欲が入学後に高まっていることをアピールする。（→魅力発信の強化）	A a, bともに達成	a（達成） ア ホームページは掲載済み。パンフレットへの掲載は間に合わなかったが、代わりにSNS（インスタグラム）へ掲載した。 イ さくら連絡網を使い、保護者に対して情報を提供できた。 b（未達成） 学校評価アンケート（保護者）「特色のある学校を目指していると感じる」2.9（±0）であった。	B
		ア ホームページ、パンフレットに「授業力アップに向けた取り組み」について紹介するコーナーを設ける イ 授業力アッププロジェクトに関する成果を生徒・保護者に対しても案内、説明する	B a, bいずれかを達成		
		③ a ア、イの実施 b 学校評価アンケート（保護者）で「特色のある学校を目指していると感じる」の総計平均が3.0以上。	C Bに満たない		
	(2)	① 本校の特色や強みを発信することで、在校生および保護者の誇りを高める。（→魅力発信の強化）	A a, bともに達成	a（一部達成） ア ホームページに制服ページを新設。生成AIを活用して本校の制服をアピールできた。 イ 学校評価アンケートの結果より、生徒や教職員の声をホームページに掲載する予定であるが、今年度中での実施は難しい見通し。 b（達成） 学校評価アンケート（生徒）「緑陽生として誇りを持っている」3.1（+0.3）、（保護者）「子どもは備前緑陽高校の生徒として誇りをもっている」2.9（+0.1）であった。	B
		ア ホームページ、パンフレットに「制服のバリエーションの豊富さ」について紹介するコーナーを設ける イ ホームページに「本校の強み」に関する教職員や生徒の声、施設や設備を紹介するコーナーを設け、在校生・保護者にも案内、周知する	B a, bいずれかを達成		
		③ a ア、イの実施 b 学校評価アンケート（生徒）「緑陽生として誇りを持っている。」および（保護者）「子どもは備前緑陽高校の生徒として誇りをもっている。」の総計平均がいずれも0.1ポイント以上上昇（R6:生徒2.8/保護者2.8）	C Bに満たない		
	(3)	① 昨年度まで実施していた渉外・広報関係の活動について、効果を検証して取捨選択するとともに、引き続き実施する活動について業務の効率化を図る。	A a, bともに達成	a（達成） ア これまで行ってきた広報活動のうち、年3回の中学校訪問と学校案内パンフレット春号の作成を精選した。 イ オープンスクールは申し込みや中学生とのやりとりをGoogleフォームとGmailに一本化。従来使っていたFAXに比べて格段に省力化できた。またホームページおよびブログの更新手順（担当者制作→課長チェック）を定着できた。 b（達成） ブログ記事のインスタグラムへの自動投稿システムを今年度新たに確立。ホームページ、ブログ、インスタグラムと3件改善済み。	A
		ア 入学説明会で実施した広報活動に関するアンケートを踏まえ、それぞれの活動の効果を検証して内容を精選する。 イ オープンスクール、スクールガイド作成、ホームページ更新に関する業務について、手順や仕組みの改善に取り組む。	B a, bいずれかを達成		
		③ a ア、イの実施 b 手順や仕組みの改善3件以上	C Bに満たない		

令和7年度 学校評価書 別紙

令和7年度の具体的な学校経営目標

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価
生活課	(1)	① 全校生徒が、元気な声で心のこもった気持ちの良いあいさつができるようになる ア 教員側から生徒の手本になるあいさつをする。 イ 教員からのあいさつに対し、きちんとかえすことができる。 ウ 教員からではなく、生徒自らが元気の良い気持ちの良いあいさつができるようになる	A a, bともに達成	a 多くの生徒が気持ちのいい挨拶ができています。教員側からあいさつをすれば、ほとんどの生徒はあいさつを返すことができています。	B
		②	B a, bいずれかを達成	b 自ら進んであいさつのできる生徒もいるが、全ての生徒ではない。自分から進んであいさつできる生徒が増えるように促していきたい。	
		③	C Bに満たない		
	(2)	① 基本的な生活習慣の確立を図り、生徒が時間を守って行動し、部活動など生徒の主体的な取組が活発に行われるようになる。	A a, bともに達成	a 大多数の生徒が開始のチャイム前に教室に入り、授業の準備をして着席できている。時間を意識して行動してくれている生徒が多いのでその雰囲気作りを今後も大切にしたい。	B
		②	B a, bいずれかを達成	b 部活動加入率は54.5%を上回り、多くの生徒が活発に活動している。しかし、年度途中で退部する生徒が少なからずいる。	
		③	C Bに満たない		
	(3)	① 規範意識の向上をはかり、ルールやマナーを守ることの重要性をあらゆる場面で認識させることで各種指導の減少を図り、スムーズな業務が遂行される。	A a, bともに達成	a 学校評価では84%の生徒が肯定的に捉えている。しかし、まだまだ、ルールやマナーの重要性を理解できていない生徒もあり、引き続き機会をとらえ指導していきたい。	A
		②	B a, bいずれかを達成	b 特別指導の件数は昨年度に比べ減少し、多くの生徒が落ち着いた学校生活を送れている。	
		③	C Bに満たない		
(生活課) 厚生	(1)	① 校内美化活動を通じて安全で安心な環境を整える。	A a, bともに達成	a 参加していない生徒は存在するが、全員清掃が当たり前の状態に近づけるように全体・個別に声かけを行い周知している。	B
		②	B a, bいずれかを達成	b 毎月の実施・報告に至らなかったが学期ごとの報告に努めている。	
		③	C Bに満たない		
	(2)	① ボランティア・美化委員会を中心とする活動の活性化 校内の美化活動に生徒が主体的に参加できるように働きかける。	A a, bともに達成	a 校内のゴミ分別と花壇の整備（水やり、草取り）に生徒が主体的に大々取り組んでいた。また、緑陽祭では、模擬店のゴミを回収し所定の場所まで運ぶ活動もできていた。	B
		②	B a, bいずれかを達成	b 校内美化を意識して学校生活ができる生徒が増えるように促していきたい。	
		③	C Bに満たない		
	(3)	① 教職員・保護者・SSW・SC等の連携をはかり、複数の視点で生徒をサポートできる体制をつくる。	A a, bともに達成	・12月現在、面談（生徒・保護者 SSW6名・SC24名）を行った。また、行政等を含めたケース会議を9回（実人数3名）実施するなど、校内外が連携し情報共有する場を設けた。	B
		②	B a, bいずれかを達成	・研修会については左記のとおりである。 ・iチェックについて、予定通り実施した。	
		③	C Bに満たない		

令和7年度 学校評価書 別紙

令和7年度の具体的な学校経営目標

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価
進路課	(1)	① ・進路希望に応じた補習等などの指導を実施し、教務と連携して、学習習慣の育成と学力の向上を図る。 ・3年生の進路希望を実現する。	A a, b, c 2つ以上を達成	a:基礎力診断テストにおける平均学習時間については、中間期以降調査をとっていない。来年度に向けて、各教科・学年団の協力のもと、生徒が少しでも家庭での学習習慣が身につくように取り組んでいきたい。 b:公立大学に2名合格（尾道市立大・公立鳥取環境大）で目標値達成。来年度も生徒の希望を叶えられるような個別指導を引き続き行いたい。 c:12/26現在、学校斡旋による就職希望者は47名全員内定し、目標値達成。	A
		ア 授業以外の学習時間について、1時間以上を目標とする。（達成した生徒には、学年+1時間に近づける）(R6.8 1年0.72h 2年0.52h)。 イ 基礎力診断テストの結果に基づき、生徒個々に応じた学習課題を取り組ませる。 ウ サタセミや進路希望ごとの試験対策補習等を実施し、学力と面接力を育成する。	B a, b, c いずれか1つを達成		
		③ a 基礎診断テストでの調査における授業以外の学習時間（1・2年）が、それぞれ1時間を達成する。 b 国公立大学に生徒2人以上合格。 c 就職希望者内定率を卒業までに100%達成。	C Bに満たない		
	(2)	① ・キャリア教育、地域連携活動、社会体験活動を推進することで進路意識を高め、早い時期での進路目標の設定を図る。併せて、表現力、コミュニケーション力をさらに向上させるとともに社会人としての良識を身につけさせる。 ・進路に関する情報や指導内容についての情報提供を積極的に行うとともに、自らが行動できるように担任等を援助していく。	A a, bともに達成	a:インターンシップ10名、職場前見学54名に加え、備前市商工会議所が実施する1・2年対象市内企業バスツアーへの31名参加し、目標値は達成。地域の力もお借りしながら、キャリア教育の育成に向けて引き続き取り組みたい。 b:「進路決定に向けて、情報の提供や個別相談などを通じたきめ細かい指導がなされている」の生徒の回答について、本年度は3.2で、昨年度よりも0.1ポイントアップし目標を達成した。これは、担任を中心に教職員が生徒個々の希望をよく確認し、丁寧に対応したきた成果だと考える。来年度も引き続き、同様の指導を行えるような体制作りをしていきたい。	A
		ア インターンシップ、学校見学、職場見学などの社会体験活動へ生徒を参加を推進し、進路意識の醸成を図る。 イ 様々な活動や進路実現のための指導に関する情報などを中心に進路便りなどを発行するとともに、担任への援助を行う。	B a, b いずれかを達成		
		③ a アのうちインターンシップ等の職場見学・体験への参加数を全体で50人以上（R6:47人 R5:7人（インターンシップのみ）） b イをすることで、学校評価の生徒の「進路決定の指導」項目の評価が、昨年度以上（R6:3.1 R5:3.1）	C Bに満たない		
	(3)	① 進路課全員で協力し合いながら、業務についての意義や効果・効率を検証し、積極的に業務の改善を図る。	A a, b, c 2つ以上を達成	a:スタディサブリの活用体制については、1年次生の産業社会と人間内での活用、就職補習での活用はできたものの、それ以外の学習面は各教科に任せる形までしかできず、十分だったとは言えない。来年度は、体制作りを強化し、さらなる活用を行いたい。 b:予約奨学金については事務作業全般を見直し、特に問題もなく処理でき、目標を達成した。来年度も引き続き同様の対応をとっていきたい。 c:「就職書類（履歴書）のデジタル化への対応」「奨学金全般の対応」「来年度の進路説明会（保護者向け）」について行ったが、5件という目標までは届かなかった。しかし、必要に応じて見直す体制作りはできてきているので、来年度も同様に取り組んでいきたい。	B
		ア 「スタディサブリ」の使用環境の整備と進路活用方法等を教務課とも連携しながら整備する。 イ 奨学金業務の整理と精選を行う。 ウ それぞれの業務について見直しを行い、必要に応じて業務軽減・統合・廃止等を行う。	B a, b, c いずれか1つを達成		
		③ a アについて、①スタディサブリの管理体制作り②進路保障での活用方法（進学・就職）③「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」での活用方法を構築する。 b イについて、進学用予約奨学金の登録方法の見直しを行い、処理の精度と業務負担軽減を両立するような仕組み作りを行う。 c ウについて、進路課全体で業務改善を行った件数を5件以上とする。	C Bに満たない		
進路課（総探）	(1)	① ・「産業社会と人間」「びぜんみらい学（総合的な探究の時間）」において、連携団体と協力して探究活動や発表を行い、生徒の探究意欲を喚起する。	A a, b, c 2つ以上を達成	a:校内外で中間期で示しているように協力ができた。 b:2、3年生は中間期で実施済み。1年生の発表を各クラスで2月18日実施予定。また、発表機会においては高校生PBLフォーラムにおいて校外で発表ができた。 c:1月16日に1・2年次生にアンケート調査を実施。「社会貢献活動に参加または参加するとすれば、社会の一員としての自覚を持てると感じますか？」の間に88.2%が「はい」と回答した。	A
		ア 校内外の連携体制の構築 イ 発表機会の確保	B a, b, c いずれか1つを達成		
		③ a 校内外の連携組織の協力体制を整理する b フィールドワークや発表の機会を各1回以上確保する c アンケートによる探究意欲、基礎的・汎用的能力、主体的、協働的に学ぶ態度の項目において70%以上の生徒が肯定的に変容する	C Bに満たない		
	(2)	① 校内および地域と連携し、社会貢献活動に取り組むことをとおして、地域を愛し貢献する態度を育成する。	A a, bともに達成	a:学習管理システムを活用しボランティアごとに詳細な情報伝達を実施。また、学年主任、担任と連携し個々の生徒にボランティアの参加を促した。 b:1月16日に1・2年次生にアンケート調査を実施。「社会貢献活動に参加または参加するとすれば、地域を愛し貢献しようという気持ちになると感じますか？」の間に87.6%が「はい」と回答した。	B
		ア 社会貢献活動の校内制度の再構築 イ 社会貢献活動や社会体験活動への参加を推進	B a, b いずれかを達成		
		③ a 社会貢献活動の制度の再構築 b アンケートによる地域を愛し貢献する態度の項目において90%以上の生徒が肯定的に変容する	C Bに満たない		
	(3)	① 各年次団、備前市及び関係団体と連携し、円滑な業務運営を実践する。	A a, bともに達成	a:状況に応じて必要時に開催することができた。 b:事前に細かな情報共有とまていたらなかった。来年度はより早くから計画的に取り組み情報伝達を行っていききたい。また、資料などを更新または新規に作成し、来年度以降スムーズに活動できるよう、今年度中に対応したい。	B
		ア 適切な会議などの設定 イ 継続的な活動を意識した資料作成および蓄積	B a, b いずれかを達成		
		③ a 効果的な推進室会議の開催 b 課全体での情報共有	C Bに満たない		

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価
1年次	(1)	① 基本的な生活習慣の確立 ア 授業規律の確立	A a, b, cともに達成	a 始業前着席・5分前集合が概ねできている →○ b 課題提出指導の徹底 →△	B
		② イ 課題提出指導の徹底 ウ 毎日休まず登校することの大切さを毎回の学年集会で確認する	B a, b, cのうち2つ達成	提出物を「期限を守って提出」は64%、「遅れてでも」出していると回答した生徒は90%で、声かけ指導が一定の効果をあげているが、実際の提出状況は90%とは言えず、課題である	
		③ a 始業前着席・集合が90%以上できている b 課題提出指導を行い、90%以上の生徒が提出できている c 欠席ゼロの生徒が25%以上	C Bに満たない	c 欠席ゼロの生徒が25%以上 →○ (26名、25%) 1日欠席生10名を含めると35%	
	(2)	① 生徒の主体的な活動を促す ア 部活動・生徒会への加入	A a, bともに達成	a 部活動、生徒会、社会貢献参加率90%以上 →△ 86% (参加予定含む) 年度末までの声かけで90%以上を達成する	B
		② イ 社会貢献活動への参加 ウ 検定取得の奨励	B a, bいずれかを達成	b 検定取得者10名以上→△取得者2名 (1月受験 予定10名) 2年次での取得に照準を定めている生徒もいる	
		③ a 部活動に加入または社会貢献活動に参加した生徒が90%以上 b 検定取得者が10名以上	C Bに満たない		
	(3)	① 授業の進捗状況、生徒の様子など情報共有を行い学年団として生徒を育てる ア 報告・連絡・相談を密にして各クラスの生徒の様子を学年団で把握する。	A a, bともに達成	a 2週間に1回ペースで学年会→○ (学年会18回開催) 随時情報共有し、生徒・保護者対応できた。	A
		② イ 学年団だけでなく、教育相談、保健室、授業担当および部活動の顧問等とも情報を共有し、チームとして生徒を見守る。	B a, bいずれかを達成	b 会議が延長しないよう工夫→普段から連絡を密に行い、必要な事を適切な時間で話す事ができた	
		③ a 2週間に1回は学年会を実施する b 会議が17時以降に延長されないよう工夫する	C Bに満たない		
2年次	(1)	① 基本的な生活習慣の確立 ア 授業規律の確立	A a, b, cともに達成	a 始業前着席・5分前集合が概ねできている →○ b 課題提出期限厳守指導を徹底できている →○	B
		② イ 課題提出指導の徹底 ウ 毎日休まず登校することの大切さを共有	B a, b, cのうち2つ達成	c 欠席ゼロの生徒が30%以上 →△ (25名、24%) 2学期、感冒による欠席が多くなり、欠席ゼロの生徒数が減少した。しかしながら、欠席1日の生徒が10名いることから、30%程度は学校をほぼ休まず登校できていると思われる。(因みに欠席2日は13名)	
		③ a 始業前着席・5分前集合が概ねできている b 課題提出期限厳守指導を徹底できている c 欠席ゼロの生徒が30%以上	C Bに満たない		
	(2)	① 生徒の主体的な活動を促す ア 部活動への加入・継続	A a, b, cともに達成	a 部活動加入率60%以上 →○ (64名、60%) b 社会貢献活動に参加した生徒80%以上 →○ (81名、76%≒約80%) c ウについて、一人一つは達成 →△ (資格23名、インターシップ 11名、OPキャンパス 12名、職場見学 (11月31名、12月11名)、延べ88名参加)	B
		② イ 社会貢献活動への参加 ウ ア・イ以外の主体的な活動(資格取得、インターシップ、職場見学など)の奨励	B a, b, cのうち2つ達成	一年を通じて主体的な活動(資格取得、インターシップ、職場見学など)を奨励してきた。実人数はこの数より若干少ないが、延べ人数は88名であり、主体的に取り組んでいる生徒がいることは確かである。	
		③ a 部活動加入率60%以上 b 社会貢献活動に参加した生徒80%以上 c ウについて、一人一つは達成	C Bに満たない		
	(3)	① 授業の状況、生徒の様子など情報共有を行い学年団として生徒を育てる ア 報告・連絡・相談の確実な実施	A a, bともに達成	a アの実施 →○ (学年会14回開催など) b イの実施 →○ (適宜連携した)	A
		② イ 授業担当、教育相談 (SC、SSW含む)、保健室、部顧問等と連携	B a, bいずれかを達成		
		③ a アの実施 b イの実施	C Bに満たない		
3年次	(1)	① 基本的な生活習慣の確立と維持（進路決定後も継続させる） ア 授業規律の確立	A a, b, cともに達成	a (達成) 着席や集合は、概ねできている b (達成) 指導の徹底は、概ねできている c (未達成) ※2学期末では25% (114名中29名)	B
		② イ 提出期限厳守指導の徹底 ウ 毎日休まず登校することの大切さを共有	B a, b, cのうち2つ達成		
		③ a 始業前着席・5分前集合が概ねできている b 提出期限厳守指導を徹底できている c 欠席ゼロの生徒が30%以上	C Bに満たない		
	(2)	① 進路の場面で「高校生活で頑張ったこと」を明言できるような活動を促す 生徒への励ましと声かけで意欲喚起する	A aが60%以上	a (達成) ア 学校行事72%、イ 部活動45%、ウ 社会貢献活動 12% ・体育会・文化祭や球技大会等への参加は良好。 ・部活動を3年間継続した生徒は達成感あり。 ・社会貢献活動については二極化している。 ・「特に頑張ったことはない」生徒も、進路の場面では何かを答えることができた。	A
		② イ 部活動 (3年間の集大成として) ウ 社会貢献活動 (社会との繋がりを意識して)	B aが40%以上		
		③ a 「頑張ったこと」としてアイウの項目を挙げる生徒の割合	C Bに満たない		
	(3)	① 生徒と向き合う時間を確保する ② ア 会議回数の削減・会議時間の短縮	A a, bともに達成	a (達成) 2学期末まで学年会は4回のみ。朝礼時で対応。 b (達成) 会議開始時刻を早めている。	A
		③ a 学年会は平均して月2回程度とする b 会議時間が17:00を超えないよう工夫する	B a, bいずれかを達成		
			C Bに満たない		

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
 (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
 (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価		
国語科	(1)	① 「分かる・できる」授業作りを推進し、生徒の学習意欲を高める工夫を行う。 ア chromebookを用いて、生徒の学習意欲や考える力を伸ばす授業を行う。 イ 提出物を期限内に提出することを呼びかけ、家庭学習の定着をはかる。	A a, bともに達成 B a, bいずれかを達成	a 達成。Chromebookを用いて各人がアウトプットする状況を設定し、興味関心を高められるようにしている。課題提出状況も折を見て声かけしている。 b 達成。ほぼ毎回の授業で用いている。	A		
		② a ア、イの実施。 b chromebookを用いた授業を学期に1回以上実施する。	C Bに満たない				
		③ ①自分と社会との結びつきについて考える授業を展開する。 ア 筆者の主張や意見に対して、自分の意見や立場を主張できる機会を設ける。 イ 作品の読解を契機とし、自己とその周辺について認識し、将来の生き方に対する考察を深め、発表する。 ② a ア、イの実施。 b 授業内で、自己の進路に対する考えや授業の感想を書かせ、授業改善に繋げ	A a, bともに達成 B a, bいずれかを達成 C Bに満たない	a 達成。Chromebookの質問機能やプリントを用いて、筆者の意見に対する考えを記述させている。発表は単元の最後など、時機に応じて行っている。 b 達成。毎回の授業でchromebook上で振り返りをさせている。		A	
	③ ①国語科内で連携して授業作り・評価を行う。 ア classroomを通じて、授業の組み立て方や教材の共有を図る。 イ 成績入力シートを用いて、観点別評価や成績入力の省力化・効率化を図る。 ② a ア、イの実施。 b 課内で共通理解された着眼点に基づき、成績をつける。	A a, bともに達成 B a, bいずれかを達成 C Bに満たない	a 達成。3学年を通して授業スケジュールや教材の共有を図っている。1学期・2学期の成績は成績入力シートを用いた。 b 成績入力の時期は、国語科で集まって検討した。	A			
	(2)	① 学習習慣を確立させ基礎学力の定着を図る。 ア 長期休暇での課題の実施 イ 授業内で練習問題に取り組みせるとともに、ICT端末を活用して調べ学習などにも取り組みさせる。 ② a ア、イの実施。 b 各考査で基礎問題の正答率が60%以上。	A a, bともに達成 B a, bいずれかを達成 C Bに満たない		a (達成) ア 冬季休業中に基礎学力を定着させるための課題を実施。 イ 各科目内で練習問題、調べ学習ともに取り組ませている。 b (未達成) 考査の基礎問題の正答率が平均して60%を超えなかった。		B
		③ ①生徒が意欲的・主体的に学ぶ授業を目指した授業改善を行う。 ア 毎授業時間、目標の提示・振り返りを徹底する。 イ 「分かる・できる」授業という観点で教科内での相互授業見学を行い、意見交換を行う。 ② a ア、イの実施。 b 校内・校外の授業見学と意見交換を年に4回以上実施して、教科内で共有する。	A a, bともに達成 B a, bいずれかを達成 C Bに満たない		a (達成) ア 各科目で実施できている。 イ 授業公開週間中以外にも定期的に授業見学を行い、意見交換を行った。 b (達成) ア 校内で2回、校外で3回授業見学を行い、内容を教科内で共有した。	A	
		③ ①教諭・新採用教諭・時短勤務教諭の教科業務の連携・効率化をはかる。 ア 非常勤講師への授業状況を把握して、授業援助を実施する。 ② a 日常的な情報交換・授業見学	A aができて、トラブルなし B aができて、少しのトラブルあり C aが不十分で、トラブルあり	a (達成) ア 教科間、科目間で情報交換を定期的に行うことができている。 授業見学についても、公開授業週間中を中心に行うことができた。	A		
	数学科	(1)	① 家庭学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。 ア 基礎力診断テストで得点が取れるように基本問題の定着を図る。 イ 提出物を出すように指導する。 ② a 基礎力診断テストの平均点を、1,2年生ともに1回→2回-5%以上にする。 b 提出物の提出率が、全10科目中5科目以上で90%以上となる。	A a, bともに達成 B a, bいずれかを達成 C Bに満たない			a (未達成) 1年生は目標値から-1点、2年生は目標圏内 1年生 49.8→46.2、2年生 46.1→44.1点 b (未達成) SVが受講する科目以外は目標が達成できていない
			③ ①生徒が意欲的・主体的に学ぶ授業を目指した授業改善を行う。 ア 振り返りシートを活用し、目標の提示・振り返りを徹底する。 イ 教務課の授業力アップチームやICT活用チームと相談しながら、ICTの研究を行う。 ② a すべての科目で、毎回振り返りシートを活用する。 b 1年間かけて、chromebookを利用した、学習活動や振り返りの方法を研究す	A a, bともに達成 B a, bいずれかを達成 C Bに満たない		a (達成) どの教員もすべての科目で振り返りシートを活用できている。 b (達成) chromebookでの振り返りの方法は検討できてきた。Chromebookだけを利用するよりも紙との併用がよいことが分かった。生成AIを活用した授業やアプリ制作、活用ができた。	A
③ ①数学科全員で協力し合いながら、業務についての意義や効果・効率を検証し、状況に応じて積極的に業務の改善を行う。 ア 指導と評価の一体化およびスリム化を進めていく。 イ それぞれの業務について見直しを行い、必要に応じて業務軽減・統合・廃止等を行う。 ② a アについて、観点別評価の方法や評価のための手段を、1年間かけて整備する。 b イについて、数学科全体で業務改善を行った件数を1件以上とする。			A a, bともに達成 B a, bいずれかを達成 C Bに満たない	a (達成) 教務課作成のエクセルシートで成績処理をし、それを用いて教科会議を行い、より良い評価の為の方法を共有することができた。 b (未達成) 改善できていない。	B		

令和7年度 学校評価書 別紙

令和7年度の具体的な学校経営目標

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価
理科	(1)	① 安心・安全な授業づくりの推進を基盤とし、生徒の学習意欲を喚起させるため、身近な日常生活との結びつきを考えさせる。	A a, bともに達成	a (達成) 各科目で実験も取り入れながら事故や怪我なく授業計画を立て、進めている。また、個別指導に関しては、生徒が希望する進路の入試科目に応じて実施できた。 b (達成) 現在10人。(生物8人：化学1人、物理1人)	A
		ア 各教科の特性を組み込んだ授業を展開するとともに、様々な進学希望に対応できる個別の指導を行う。	B a, bいずれかを達成		
		イ 授業規律を大切に、実験中の事故や怪我0件を目指す。	C Bに満たない		
	(2)	① 教科内・教科外・校外の教員・有識者とつながり、教科横断的な授業で生徒の意欲向上に努めたり、教科の指導力向上に努める。	A a, bともに達成	a (達成) 教科内だけでなく、他教科ともコミュニケーションをとりながら、指導力向上に努めることができた。一方、外部講師の依頼などはできなかった。生徒の身の回りの事象を取り扱うことを今後も心がけていきたい。 b (達成) 現在6回。研修講座への参加も授業見学も積極的に行ってきたので、後半も継続して目標達成し、自己研鑽に努めたい。	B
		ア 指導方法、教材の工夫についての情報交換を積極的に実施する。	B a, bいずれかを達成		
		イ 地域の産業や自然環境とのつながりを考える授業展開を導入する。外部講師の依頼や、身近な現象など教科外とのつながりも検討する。	C Bに満たない		
	(3)	① ICTの効果的な活用方法を模索し、個別指導の際に各分野が出す課題の量と質を適正化する。	A a, bともに達成	a (達成) 各科目それぞれに教材研究をし、積極的に情報交換することができた。一方、課題量の視覚化や共有は調整が十分できなかった。 b (達成) 他教科との連携や、内容のリンクは月2程度の頻度で行えた。	B
		ア 課題量の視覚化をするなど、共有方法を検討し共有する。	B a, bいずれかを達成		
		イ 指導方法、教材の工夫についての情報交換を積極的に実施する。	C Bに満たない		
保健体育科	(1)	① 授業規律を大切に、けじめのある生活態度を身につけさせる。	A a, bともに達成	a 第Ⅱ観点Aは70%を超える授業は多かったが超えない授業もあった。授業規律に関しては意識をさせることは概ねできていた。 b 提出物は多くの授業で守られている。	B
		ア 今取るべき正しい行動を判断させる 「聞く・理解する・判断する」ことをその都度問いかけ、生徒が実行できるように促す。	B a, bいずれかを達成		
		イ 提出期限を守らせる 「ホウレンソウ（報告・連絡・相談）」が習慣づくよう、必要に応じて個別指導を行う。	C Bに満たない		
	(2)	① 生徒が意欲的・主体的に学ぶ授業を目指した授業改善を行う。	A a, bともに達成	a 多くの授業で振り返りはできていたが難しい場面もあった。 b 教員間の見学はできているが意見交換はできていない。	B
		ア 目標・振り返りを毎授業実施	B a, bいずれかを達成		
		イ 校外研修や相互の授業見学	C Bに満たない		
	(3)	① 授業内外での安全面を確保する。	A a, bともに達成	a 設備、用具の不備による大きな事故等はなかったが、定期的な確認ができていない物もあればできていない物もあった。 b 生徒間の意見交換はできている。	B
		ア 施設・用具の定期的な確認・整備。	B a, bいずれかを達成		
		イ 生徒情報の共有（授業後の様子）	C Bに満たない		
芸術科	(1)	① 作品を通して他者と対話する心を育成する。	A a, bともに達成	a (達成) ア 実施済み。 イ 油彩画やだるま制作の授業などで実施。よい雰囲気が進められた。 B (達成) アンケートは3月授業で実施予定であるが、肯定意見9割は達成の見込み。	A
		ア 授業計画を生徒に公表し、相互鑑賞の時間について意識を持たせる。	B a, bいずれかを達成		
		イ 教科書の作品だけでなく、互いの作品に触れる機会を多くつくり、価値観の多様性について考えさせることでお互いを認め合う雰囲気を醸成する。	C Bに満たない		
	(2)	① 地域と連携した授業を実施し、魅力発信に寄与する。	A a, bともに達成	a (未達成) ア 未実施。年度内の出前授業の依頼はなかった。 イ 備前市美術展に参加。美術Ⅱの授業作品を出品。 ウ 片上地区文化祭へ参加。美術部の作品を出品。 b (達成) 備前市美術展についてブログで発信。	B
		ア 中高連携・高大連携等を拡充し、大学や小中学校等との連携授業を実施する。	B a, bいずれかを達成		
		イ 備前市文化祭へ参加する。 ウ 新たな作品発表の場を開拓する。	C Bに満たない		
	(3)	① 科目の特性や人員配置的に科としての協力は難しいため、目標は設定しない。	A		
		②	B		
		③	C		

令和7年度 学校評価書 別紙

令和7年度の具体的な学校経営目標

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価
外国語科（英語）	(1)	① 「分かる・できる」授業となるよう、授業力向上のために研鑽する。生徒の学習習慣を確立させ、基本的な学習内容の定着がはかれるようにする。	A a, bともに達成	a (達成) ア 計画的に実施できた。 イ 週末課題を課しているが提出率は後半下がった。再度確認をして、家庭で学習するよう働きかけを工夫する必要がある。 ウ 積極的な受検の声かけを行った、 b (未達成) 受検者30名・合格者7名（第2回まで）・合格率35%（第2回まで）	B
		ア 計画的に単語テストや定着テストを実施し、学習内容の定着を確認する。	B a, bいずれかを達成		
		イ 週末課題や予習・復習を通して家庭学習時間を確保する。 ウ 英検の受験を積極的に促し英語に対する学習意欲を高める。	C Bに満たない		
	(2)	① 外国語や文化に対する興味を喚起し、理解を深め、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	A a, bともに達成	a (未達成) ア 年間を通じてペアやグループでの学習を取り入れ、他者の意見に触れる機会を増やしてきた。協働の場面では、自分の役割を果たそうと試行錯誤する姿が見られるものの、まだ課題が残る。 イ SDGsなど題材の背景や論理的思考力を育てる授業が展開できた講座もあったが、書かれている内容の把握のみで精一杯である場合も多かった。 b (達成) 既習事項を用いて英語で表現しようとする姿が多く見られた。	B
		ア ペアワークやグループワークを通し、主体的に英語を使って自己表現ができるようにする。	B a, bいずれかを達成		
		イ 教材や、時事問題を通して幅広い題材に触れ、情報を整理したり自分の気持ちなどを伝える場面を増やす。	C Bに満たない		
	(3)	① 教職員がワンチームとなり協力して授業作りをする。	A a, bともに達成	a (達成) 教材の共有や、ICT活用について互いに教授方法を確認するなど連携できた。 b (達成) classroomを利用して週3回の英文配信で英文に触れる機会を増やし、単語力強化に取り組んだ。	A
		ア 授業作りや教材の共有などで連携する。	B a, bいずれかを達成		
		イ classroomやスタディサプリによる省力化・効率化が図れる活用法を研究し、実施する。	C Bに満たない		
商業科・情報科	(1)	① プレゼンテーションに必要な知識・技術を丁寧に指導し、自身の考えをまとめ、発表できる力を定着させる	A aで3項目とも80%以上	a (達成) 3年生の調査結果 ア PC操作技術の習得 100%（身についた50%、ある程度身についた50%） イ 情報収集の方法と加工技術の習得 93%（身についた29%、ある程度身についた64%） ウ 上記を踏まえたプレゼンテーション力の育成 93%（身についた29%、ある程度身についた64%）	A
		ア PC操作技術の習得	B 同 70%以上		
		イ 情報収集の方法と加工技術の習得 ウ 上記を踏まえたプレゼンテーション力の育成	C Bに満たない		
	(2)	① 資格取得を実現させ、生徒の自己肯定感を高める	a, b, cいずれかで A 2級以上を取得した生徒が80%以上	a (未達成) 3年生14名中、a b cいずれかで2級以上を取得した生徒は11名（79%） a 情報処理検定（表計算）71%（10名） b 日本語ワープロ検定 50%（7名） c 文書デザイン検定 36%（5名） 【参考】 2年生28名中、a b cいずれかで2級以上を取得した生徒は6名（21%） a 情報処理検定（表計算）21%（6名） b 日本語ワープロ検定 4%（1名）	B
		ア 3年間の取得計画を明示する	B 同 60%以上		
		イ 習熟度に応じた丁寧な受検指導を行う ウ 課外の自主学習を支援する	C Bに満たない		
	(3)	① 少人数の教科であるため、本項目の目標は設定しない	A		
		②	B		
		③	C		

令和7年度 学校評価書 別紙

令和7年度の具体的な学校経営目標

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価
工業科（機械）	(1)	① 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指して授業改善を推進しつつ、安全安心な学習環境を整備する	A a, bともに達成	a: 災害ゼロで達成できた。 B: 2学期の提出物提出率は概ね以下の通りであった。 2年生: 75% 3年生: 65%	B
		ア 5Sを考慮した作業前ミーティングの実施及び危険予知を取り入れた授業	B a, bいずれかを達成		
		イ 適度な課題と目標値の設定を行い、随時生徒へ現状を伝え提出を促す。 ウ 授業終了時には学習の振り返りを行い知識の定着を促す（レポートを含む）	C Bに満たない		
	(2)	① 人間力の形成を図り生徒の主体的な行動を支援する	A a, b, cともに達成	a: 29.4%・・・ほぼ達成した。 b: 57.9%・・・達成 c: 94%・・・達成	A
		② 資格を取得することで生徒に自信を持たせ、主体的な進路活動等につなげる	B a, b, cのうち1つ達成		
		③ a 機械製図検定合格率30%（3年）、前年度合格率38% b 基礎製図検定合格率30%（2年）、前年度合格率23% c 計算技術検定3級合格率70%（2年）、前年度合格率73%	C Bに満たない		
(3)	① 教員がワンチームとなり、協力しながら授業づくりを行い業務のスリム化を連絡・連携を取り合い、生徒情報の共有を図り問題解決につなげる。重複する業務など不要な業務があれば随時提案し、業務時間短縮につなげる	A a, bともに達成	a: 授業間での人のやりくりは全員の協力により問題なく進めることができた。また、教科に関しては部活動を除き、残業はほぼ無かった。 b: 案内不足もあり、提案はなかった。来年度は周知を徹底していこうと考えている。	B	
	②	B a, bいずれかを達成			
	③ a 科業務による残業時間ゼロ。 b 機械系教員による科内改善提案1件以上	C Bに満たない			
工業科（電気）	(1)	① 生徒が自ら興味関心を持てるよう主体的で深い学びができる授業づくりを推進する	A a, bともに達成	aの項目については イについては中間期以降工夫を行い実施した。 bの項目については 3年は自主的に学べた項目については全員とはいかなかったものの、全員が楽しく学べたと回答を得ることができた。しかしながら、第二種電気工事の受験希望者が少なく資格取得に向けて取り組み方を考える必要性を感じた。	A
		ア 「授業5（ファイブ）」に則った授業を行い、振り返り学習の成果を自覚させる。	B a, bいずれかを達成		
		イ Chromebookを活用し自らが楽しく学べる授業を展開する。 ウ 「5S」の推進と危険予知活動を行い、安心安全に実習、授業を行う。	C Bに満たない		
	(2)	① わかりやすい授業に努め、電気に関する基礎的・専門的な知識を習得させ、生徒の主体的な活動を支援する。資格取得の推進。	A a, b, cともに達成	aの項目については 交流活動ができなかった。来年度は身近な電気などテーマを見直し検討したい。 bの項目については長期欠席する生徒もなく達成できた。 cの項目については3年生の生徒が下期で1名受験1名が筆記合格。 技能試験は1月下旬に発表。	B
		ア 資格取得に向けて家庭学習ができるように適度な課題を各教科で出す。	B a, b, cのうち1つ達成		
		イ 生徒が得た知識、技能を活用してオープンスクール等で他者に伝承する。 ウ 実験・実習の中で行動と活動を通して社会に貢献することの大切さを教え	C Bに満たない		
(3)	① 授業の進捗状況、生徒の様子など情報共有を行いチームとして生徒を育てる	A a, bともに達成	ア、イについて年間を通して継続することができて3年生については各自の進路実現に貢献できた。	A	
	ア 報告・連絡・相談を密にして各学年の生徒の様子を全員で把握する。	B a, bいずれかを達成			
	イ 電気系だけでなく、クラス担任および部活動の顧問等とも情報を共有しチームとして生徒を見守る。	C Bに満たない			
工業（工業化学）	(1)	① 「分かる・できる」授業を目指し、緑陽型学習スタンダードの実践と、classroomを活用した授業を取り入れ授業力の向上を図る。また、安全な実習を行うため、環境整備を定期的に行う。	A a, b, cともに達成	a アの90%実践 → ○ b イの90%実施 → ○ c ウの100%実施（実習科目） → ○	A
		ア 「授業の流れ」「めあて」「まとめ」を示し、どのようなことを学んでいるのかが分かる授業にする。	B a, b, cのうち2つ達成		
		イ 授業板書を毎時間記録し、classroomに配信することで、生徒が振り返りを容易にできるようにする。 ウ 実習室の安全管理を徹底し、5SとKYTが身につく授業を展開する。	C Bに満たない		
	(2)	① 資格取得を通して、主体性・自己肯定感を高める。オープンスクールや出前授業等の活動を通し、授業以外（学校外）の場で輝ける力を育成する。	A a, bともに達成	a アの100%実施 → ○（ボイラー、X線は受験希望なし） b イについて1回以上の実施 → △（出前授業がなかった）	B
		ア 補習（年3回：危険物、年1回：ボイラー、X線）の実施。	B a, bいずれかを達成		
		イ 生徒が持つ知識・技術を活用して、他者や社会に役立てる機会を作る。	C Bに満たない		
	(3)	① 授業の状況、生徒の様子など確実に情報共有を行い、チームとして生徒を育てる。工業化学系内で業務の効率化をすすめ、相互協力しあって定時退校できるように	A a, bともに達成	a アの実施 → ○ b イの実施 → △	B
		ア 工業化学系教員はもとより、クラス担任や部顧問と報告・連絡・相談を密にして、工業化学選択者の状況把握に努め、チームで生徒を育む。	B a, bいずれかを達成		
		イ 週2日は定時退校とする。	C Bに満たない		

令和7年度 学校評価書 別紙

令和7年度の具体的な学校経営目標

- (1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- (3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理

担当	経営目標番号	① 学校経営目標に基づく各担当の目標 ② 目標達成のための具体的方策（検証可能なもの） ③ 具体的方策の達成規準	④ 評価基準	達成状況（最終）	評価
家庭科	(1)	① 生活を主体的に営むための、基礎的基本的な知識・技術の定着を図る。 ア 実践的・体験的な学習活動を通して、「分かる・できる」を実感し、生活の中で活用できるようにする。	A a, bともに達成	a ア、イとも概ね実施できた。 b 肯定的な意見は、1～3年までで、80%以上となり、基準を達成できた。	A
		② イ 安全に安心して実習に取り組み、環境を整備し、かつ、実習に取り組みやすくするため、Chromebookを活用する。	B a, bいずれかを達成		
		③ a ア、イの実施。 b 授業の振り返りで、「基礎的基本的な知識・技術が身につく、生活に活かすことができた」に対して、肯定的な意見が80%以上となる。	C Bに満たない		
	(2)	① 生徒が、他者の意見を聞いたり、自分の考えを述べたりし、周囲と関わり協力する活動を支援する。また、地域との関わりを通して、人間力を育む活動を実践する。	A a, bともに達成	a ア、イとも概ね実施できた。 イについては、備前市の栄養士・栄養委員の方たちによる料理講習会や外部講師による和菓子講習会を実施できた。片上認定こども園の協力で保育園実習を実施することができた。 b 生徒アンケートの結果、肯定的な回答が1～3年までで80%以上となり、基準を達成できた。	A
		② ア 実習などを中心に、生徒が周囲と協力して活動する場面を多く設定する。 イ 地域の関係機関（認定こども園など）と連携し、学習内容を生かした交流を行う。	B a, bいずれかを達成		
		③ a ア、イの実施。 b 授業の振り返りで、「他者の意見をきちんと聞いたり、自分の考えを述べたりすることができ、周囲と協力してできた」「地域との交流に主体的に取り組めた」に対して、肯定的な意見が80%以上となる。	C Bに満たない		
(3)	①	A			
	②	B			
	③	C			
福祉科	(1)	① 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指して授業改善を推進し、生徒の学習意欲を喚起する	A a, b, cともに達成	a ア、イとも概ね実施できた。 イ a介護職員初任者研修：欠席者少なくレポート課題もほぼ提出できている。 筆記と実技試験を2～3月に実施する。 b難病ヘルパー養成講座100%修了 c社会福祉・介護福祉検定 2級：2名合格/3名中（合格率66%） 3級：5名合格/9名中（合格率55%）	B
		② ア chromebookを用いて、生徒の学習意欲や考える力を伸ばす授業を行う。 イ 基礎知識・技術が定着できるように繰り返し指導を行い、検定合格や資格取得をめざす。	B a, b, cのうち1つ達成		
		③ a 2年生：介護職員初任者研修修了100% b 3年生：難病ヘルパー養成講座修了100% c 介護福祉検定 各受検級合格80%	C Bに満たない		
	(2)	① 他者との交流を通して、人間力を育む活動を実践する。また、進路実現に向けたキャリア教育に取り組む。	A a, b, cともに達成	a ア 関西福祉大学との連携は、未実施。 イ こども園（5月、10月、2月）、支援学校12月2回、高齢者福祉施設（8月、1月）を通して生徒自身が自己理解・他者理解に繋がっている。 b 生徒アンケートの結果、肯定的な回答を得た。 c 各取り組み後の様子をブログで配信している。	B
		② ア 高大連携事業を活用して、最新情報を得ることで生徒の自主性を高めるきっかけを作る。 イ 学校外での交流活動（こども園、支援学校、高齢者福祉施設の実習など）を充実させ、地域における福祉系生徒に求められる役割を明確にし、取り組み内容をブログなどで情報発信する。	B a, b, cのうち2つ達成		
		③ a ア、イの実施 b 生徒の授業振り返りにおける肯定的な意見80% c ブログの配信3回以上	C Bに満たない		
(3)	① 教職員がワンチームとなり、知識と技術を確実に習得できるように協力する。	A a, bともに達成	a ア 授業内容や方法、生徒情報について情報交換し、楽しくかつ確実に基礎基本を習得できる工夫に取り組むことができた。 イ クラスルームで教材や連絡配信を大体の生徒が確認し活用できた。 b chromebookの新しい活用により生徒が楽しく学べる環境を整備できるように努める。	B	
	② ア 座学と実技を伴う授業間で連携して根拠に基づく知識と技術を身に付けさせる。	B a, bいずれかを達成			
	③ a アイの実施 b chromebookの新しい活用方法を実践・共有する	C Bに満たない			
保健室	(1)	① 健康教育及び安全教育の充実	A a, bともに達成	・がん教育（2年：スライド）については2学期に実施した。 ・性に関する教育（1年：講演）は3学期に実施予定である。	B
		② 生徒の心身の健康課題に応じた健康教育や安全教育を実施する。	B a, bいずれかを達成		
		③ a がん教育を通して命について考える機会を企画する b 性に関する教育を通して命について考える機会を設ける。	C Bに満たない		
	(2)	① 生徒保健委員会の活性化 保健所等地域の方々と連携し保健活動に参加する	A a, b, cともに達成	・保健所と連携した活動は1～2学期に実施している。 ・生活実態については2学期に実施した。学校保健委員会資料等に反映させる予定である。	B
		② ア 校内環境の衛生的整備 イ 季節や本校の実態に応じた啓発活動の実施 ウ 保健所と取り組む啓発活動への積極的参加	B a, b, cのうち2つ達成		
		③ a 生徒の健康課題を調査等により把握する b 保健通信を学期に2回以上発行する c 啓発活動の参加率8割以上	C Bに満たない		
(3)	① 心身の健康に関する情報共有できる仕組みをつくり、生徒の心身の健康支援を行う	A a, bともに達成	・各学年の個人フォルダで閲覧できるよう入力に努めている。	B	
	② ア 出欠や保健室利用状況等から生徒の心身の健康実態を把握し担任や学年団と情報を共有する。 イ デジタルデータにより心身の健康に関する情報を共有する。	B a, bいずれかを達成			
	③ a 学期ごとに各学年に対し情報提供を行う。 b 学校保健管理ソフトを活用し健康診断票のデータ化を図る。	C Bに満たない			